

重点政策「5本の柱」を磨き上げる！！

3月6日開会の宿毛市議会定例会において市長が行政方針を表明しました。抜粋してお知らせします。

1 第1の柱 産業振興

農業分野においては、平成29年度は、「宿毛文旦」や「小夏」、「直七」などの知名度の向上や販路拡大を図るため、新聞掲載などのPR活動やふるさと納税の活用、また、他市町村におけるイベントなどにも積極的に参加しました。地方創生事業である直七の苗木配布についても予定している3500本を全て配布できる見込みです。

平成30年度の新たな取り組みとしては、担い手への農地集積化の推進のため、制度化される農地中間管理機構関連農地整備事業を活用し、大規模な圃場整備にも着手したいと考えています。



自伐型林業

林業分野においては、豊富な森林資源を地域の活性化につなげるための林業従事者の育成として、平成29年度も引き続き「すくも森林塾」を開催し、少しずつではありますが、新たな自伐型林業者を増やすことができました。平成30年度は、新規林業従事者の拡大を更に加速させていくために、自伐型林業の地域おこし協力隊の任用を予定しています。

水産分野においては、水産加工業の(株)土佐西南丸の宿毛

湾港工業流通団地への進出が決定し、平成29年度中の操業開始を目指して施設整備が進められており、(株)高知道水による高度な衛生管理基準を満たす水産加工施設も平成30年度末に完成予定です。これにより宿毛湾で生産されるブリやマダイ、マグロなどの養殖魚の加工が可能となり、地産外販の拡大や水産業の活性化、ひいては地域の雇用の創出にも繋がるものと期待しています。

また、地域の活性化や産業振興に大きく寄与するふるさと納税事業では、平成29年度の目標額である3億円の大台を突破し、現時点でおよそ3億3千万円となっており、対前年度比およそ1.6倍の伸びを記録しています。

更に、産業振興において重要な要素となる道路整備ですが、高規格道路「中村宿毛道路」については、平成31年度供用開始を目指して、現在も着実に工

2 第2の柱 観光振興

事が進められています。四国横断自動車道「宿毛〜内海間」についても、昨年、国土交通省四国地方整備局による第1回アンケート調査が実施され、その結果、本年1月24日の第2回小委員会では現道改良案と2種類のバイパス案の3案のルート帯が示されました。平成30年度は、第2回となるアンケート調査の実施も予定されており、これを受けての第3回小委員会で最終的な概略ルートが決定されることとなり、本市の要望に沿った形での計画段階評価が順調に進んでいます。このような動きと並行して、平成30年度も高速道路の想定地域周辺の国土調査も計画的に実施しますので、高速道路整備において、今後も市民の皆さんのご協力をお願いいたします。



竹内明太郎とダットサン展

また、宿毛文教センターでも「竹内明太郎とダットサン」展が好評を博し、「志国高知 幕末維新博」の第一幕は、成功を収めた実感しています。

また、本市に残された数少ない歴史的建造物であり、過去には7464名もの署名を集め、保存を求める陳情書が提出されるなど、市民の皆さんから保存と利活用についての強いご要望があった「林邸」については、「林邸再生プロジェクト」と銘打って、「志国高知 幕末維新博」関連の補助金、そしてプロジェクトに賛同して下さった方々からの貴重なご寄附により、本年4月21日のリニューアルオープンを目指して急ピッチで改修工事が進んでいます。工事完成後は、市民の皆さんが憩う交流広場、子どもたちの笑い声あふれる賑わい広場、観光客やお遍路さんが一息つく休息広場、宿毛の歴史と文化の薫る学びの広場として最大限に活用します。

また、「志国高知 幕末維新博」第二幕となる平成30年度は、企画展「宿毛と戊辰戦争」や「宿毛の人材21人」の功績を顕彰する展示や、昨年、文化勲章を受章された本市名誉市民である奥谷博氏の受章記念事業も計画しています。

して、県では各種アクティビティや体験を前面に出したキャンペーンを展開し、自然体験型観光の磨き上げを行っていく計画です。本市としても、自転車というアクティビティを活用して「ポスト幕末維新博」を想定した取り組みを平成30年度から進めていきたいと考えています。



宿毛サイクルフェスティバル

近年、全国では自転車レーンなどの整備が進められ、観光面においても地域の観光資源をめぐるサイクルツーリズムの人気も高まってきており、それを後押しするかのよう平成29年5月には「自転車活用推進法」が施行され、「環境対策」、「健康づくり」、「観光振興」など、様々な分野での自転車利用が注目されています。そのような中で本



宿毛の魚しゃぶしゃぶ

市は、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるオランダのホストタウンとして平成29年7月に登録され、平成29年度は本市を中心としてオランダ自転車女子ナショナルチームのトレーニングキャンプも行われました。

平成30年度はこのような背景を踏まえ、本市を訪れるサイクリストや一般観光客に対して、自転車を通して地域の魅力を発信し、本市の活性化を図ることを目的に、「宿毛市自転車を活用したまちづくり計画」を策定して、取り組みを推進していききたいと考えています。

なお、「自転車を活用したまちづくり」については、観光振興だけを目的とするものではなく、「スポーツ」、「環境」、「教育」、「健康」などにも自転車がもたらす複合的な効果を期待して取り組みを進めます。

また「食」に関しては、平成29年度に「宿毛の魚おもてなしプロジェクト」を立ち上げて、宿毛湾で水揚げされる新鮮な魚を活用したご当地グルメ「宿毛の魚しゃぶしゃぶ」を開発しました。このプロジェクトは市内34事業者にご参加いただいております。3月25日からは12店舗において新メニューの提供が始まります。平成30年度はこれら本市の四季折々の自然豊かな「食」をもつて、本市を訪れる観光客をもてなしたいと考えています。



サニーサイドパーク

更に、建設から既に26年が経過し、施設や設備が著しく老朽化しているサニーサイドパークについては、道の駅「めじかの里土佐清水」や「ふれあいパーク大月」などと連携することに、本市の観光拠点施設として、ま

た市民の皆さんの交流拠点施設として、そして立ち寄って下さった全てのお客様が笑顔になつて帰ってくださるような施設へと生まれ変われるよう、施設コンセプトの再検証や施設の全面改修も含めて検討します。

3 第3の柱 防災対策

これまでも津波避難道や津波避難場所の整備、各種計画の策定や耐震診断・耐震設計・耐震改修工事など「命を守る」対策に積極的に取り組んできましたが、平成29年度はそれらに加えて、平田小学校において、多くの市民の皆さんの参加をいただく中、避難所運営講習や図上訓練をはじめ、実際に体育館への宿泊を伴った「避難所運営訓練」を行いました。更に、大規模災害時に災害対策本部を設置することとしている宿毛市総合運動公園において、私を含め、約50名の職員が参加し、震災を想定した「災害対策本部運営訓練」も実施するなど、「命をつなぐ」ための対策にも取り組んできました。

平成30年度の新たな取り組みとしては、9月2日に宿毛新港をメイン会場として、災害対策